

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児工業高等学校 運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月3日(金) 10:00～
- 3 開催場所 可児工業高校 同窓会館
- 4 参加者 委員 大杉 守平 可児市中恵土自治連合会長  
伊藤 由香里 元PTA役員  
塚田 美奈子 元PTA役員  
牛江 明美 可児市図書館長  
藤田 幸夫 本校同窓会長  
吉森 豊 PTA役員

学校側 中西 竜也 校長  
庄司 幸宏 教頭  
鎌田 知子 事務長  
熊崎 俊介 教務主任  
三輪 武 生徒指導主事  
林 貴康 進路指導主事  
安藤 達矢 工業部長

### 5 会議の概要

#### (1) 課題研究発表会を参観しての感想

意見1 日常生活の中で興味関心を持っていることが課題に設定されており、生徒が主体的、積極的に取り組む姿を見ることができた。試行錯誤を繰り返しながら失敗を乗り越えてきた経験は、今後社会生活を送る上で必要な生きる力に結びつくものと考えます。

意見2 スクリーンに画像や映像を映し出しながら発表するグループが多かったが、せっかく形あるものを制作したのであれば、実物を直接見せながら説明するとよかった。発表を聞く側にとってもその方が興味を惹きつけられ、作品に対する様々な見方が可能となる。

意見3 課題研究発表はこれまで努力の成果をアピールする機会なので、発表方法にももう少しこだわりがあってもよかったのではないかと。人を惹きつけるようなプレゼンテーションができるようにすることが今後の指導に求められる。

意見4 発表には各学科の特色が現れており、専門分野について主体的に学んでいる姿を直接参観することができた。作成した製品が実用的なものになると、生徒はより達成感が得られるのではないか。学校内だけの研究に留まらず、地域産業と連携することにより専門性の高い充実した研究が期待できる。

## (2) 本校に対する意見・提言

意見1 本校から、多くの生徒が地元企業に就職できるとよい。地域発展のためにも地元に残って働くことの魅力を学校でも伝えてほしい。

意見2 卒業後にマルチ商法やねずみ講といった悪徳商法の被害に遭わないための対策や、ローン、リボ払いなど社会に出て必要な金融リテラシーについても教えていくことが重要である。

意見3 新型コロナウイルスについては、その時々々の感染状況により方針や具体的な対応策が変更されてきたが、今後も感染状況に注視しながら、感染対策を継続的に実施していくことが求められる。

## 6 会議のまとめ

- ・委員からは課題研究発表会の参観を通して、本校の工業教育の特色ある取組について理解を示していただいた。また、社会で求められる情報発信能力の育成などについての助言をいただいた。今後、地域産業との連携も視野に入れながら工業高校の特色ある学校づくりを推進していきたい。
- ・地区随一の工業高校として、地元企業に就職してほしいとの期待を真摯に受け止め、地域の発展に貢献する態度を学校教育の中で身に付けさせたい。地域産業や文化、そこにある魅力を生徒に認識させることが重要である。
- ・今の若者を取り巻く社会の情勢を考えた場合、被害者にも加害者にもならないための知識や考え方について在学中にしっかり学習しておく必要がある。関連のある教科・科目を中心としながら、さまざまな教育活動の中で、実社会を安全安心に生きていくためのスキルを身に付けられるように指導していきたい。